

若者たちの力くらべ

の重量で競つたようです。

どのような力くらべをしていた

かというと「この石をどのくらい

長く持ち上げていられるか」と

か、「肩まで何回上げられるか」

といったものだったそうです。力

持つの男性は仲間たちのあこがれ

的であつたし、女性たちにもモ

テたことでしょう。

諏訪6市町村で19力石を確認し

ました。この近くでは中洲の上金

子中の辻の道祖神の横（上金子2

741付近）です。

その後の労働の機械化や、娯楽

下金子公民館の玄関前に丸石がいくつあります。この内の5つは、かつて若者たちの間で力だめに使われた「力石」です。形としては、表面に凹凸が少ない自然石が選ばされました。これは体を傷つけないための配慮という事もあったようです。中洲神宮寺宮の脇の力石のように重量とか年代などが刻まれたものもありますが、自然石そのままのものがほとんどです。重量は16貫（60kg）の米俵を最低基準として力くらべが行われたこともあって、それ以上

の多様化によって急速に歴史の中にうすもれてしましましたが、多くの若者たちが汗を流し、親しこだ力石です。大切に残していくものです。

詳しい場所などの問い合わせは諏訪塾事務局（電話070・83

23・2107）へ。

「ぶらり諏訪塾の冊子ができました。

・諏訪市観光案内所

（JR上諏訪駅内）

れすとらん割烹いづみ屋

（諏訪市諏訪）

すわ大昔情報センター

（諏訪市博物館内）

で販売中です。



下金子の「力石」



下金子公民館の玄関前に残る「力石」

今回の筆者



小野川恵美子さん

外国人住民に日本語学習
の支援をするボランティア
サークル「諏訪日本語教室」
の代表を務めています。